

パラグアイ内政・外交報告（４月分）
政治情勢

2019年５月作成

1 内政

（１）会計検査院長の交代

２５日、ガルシア会計検査院長の辞意が議会で承認されたところ、同院長が辞任した。後任としてカミロ・ダニエル・ベニテス氏が就任した。ガルシア元院長は、横領、マネーロンダリング、不適切な文書作成等の疑惑が持ち上がっていたため、上下両院議員の一部から辞任を迫られていた。

2 外交

（１）カスティグリオニー外相のパナマ訪問

８日から９日にかけて、カスティグリオニー外相はパナマを訪問し、サイン・マロ・パナマ副大統領兼外相と会談した。また、同外相は、ラテンアメリカ・ドバイ国際ビジネスフォーラム２０１９に出席した。

（２）パラグアイの南米諸国連合設立条約の廃棄通告

１０日、パラグアイ外務省はプレスリリースを発出し、南米諸国連合（UNASUR）設立条約の廃棄通告を正式に行った。パラグアイは同条約の規定に基づき、UNASURからの脱退手続きを開始し、本年１０月に手続きを完了する予定である。

（３）ポンペオ米国務長官のパラグアイ訪問

１３日、アブド・ベニテス大統領はパラグアイを訪問したポンペオ米国務長官の表敬を受けた。その後、カスティグリオニー外相は、同長官とともに共同記者会見を行った。両者は、汚職・越境犯罪対策への取組、両国の貿易関係の強化、パラグアイ産牛肉の米国市場への解禁への期待等につき述べた。ポンペオ長官は米国と各国でベネズエラの安定及び民主主義の回復のため共に取り組む旨確認し、カスティグリオニー外相は、米パ関係・協力を強化し、理想、価値、原則を共有していくことを約束するとともに、南米地域を安全なものとし、平和を強固なるものにしつつ、自由の旗を南米に、西半球に、そして世界にはためかせることを約束する旨述べた。

（４）ベネズエラで発生した反マドゥーロ体制蜂起

３０日、パラグアイ外務省はプレスリリースを発出し、ベネズエラで発生した反マドゥーロ体制蜂起にかかる声明を発表した。外務省は声明のなかで、「ベネズエラの正当な暫定大統領であるファン・グアイドを支持する軍隊によるレオポルド・ロペス（大衆意思党党首）の解放と、それにより示された勇気と決定を祝福する。」と述べた。アブド・ベニテス大統領は自身のツイッターにおいて、「勇敢なベネズエラ国民よ、君たちの時が来た。」と述べた。

3 要人往来

（１）来訪

- ポンペオ米国務長官（公式訪問）

(2) 往訪

- カスティグリオニーニ外相, パナマ・パナマシティ (公式訪問)
- ロペス財相, 米国・ワシントン DC (世界銀行グループと国際通貨基金総会)
- マッソレーニ厚生相, メキシコ・メキシコシティ (世界保健機構及びパンアメリカン保険機構共催会合)
- ロメロ女性相, イタリア・ローマ (第一回イタリアーラテンアメリカ閣僚会議)
- ビジャマジョール内相, 亜・ブエノスアイレス (公務)
- マッソレーニ厚生相, トルコ・イスタンブール (トルコ政府主催医療関係者間国際会議)
- バレラ社会開発相, チリ・サンティアゴ (ラテンアメリカ・カリブ社会開発会議)
- クラメル商工相, 伯・サンパウロ (パラグアイ投資誘致)
- リオス司法相, 伯・プエルトアレグレ (公務)
- カスティグリオニーニ外相, トルコ (公式訪問 (アブド大統領トルコ訪問に係る事前準備))
- マルティネス幼児少年相, スペイン・マドリッド (公務)
- ウジョン官房長官, 日本 (世界銀行招聘事業)